

協働のまちづくり説明会記録(清見地区)

《開 会》

《説明者等紹介・日程説明》

《市民活動推進課説明》

①地域ですすめるまちづくりについて

(協働のまちづくりについて、自主運営組織のあり方について)

《①対しての質疑応答》

・大原地区では市の施設である旧パスカル清見のホテルやキャンプ場を利用していろいろな事業（オートキャンプ場、ツリークライミング、砂金採りなど）をやっている。資金繰りは大変であるが、この事業をやっていないと地域の人達や地域そのものが発展していかない。地域の人だけでなく、高山全域の方に来ていただきたい。

・今回の説明会は清見町民が共通の問題を認識したり、共有の目的を持つといったきっかけづくりになるものであり良かった。しかし、問題はこの先どうやってすすめていくかである。行政はここまでしか用意していない。ここからが大事なのにこの後のビジョンがないから全てがファジーになってしまう。早急にやっていかなければならない事と感じたし、ぜひ支所で清見地域の共通の問題は何かをまとめ町の活性化のためには何が必要なのかを確定してほしい。市民活動推進課として、このあとの具体的な案はあるのか。

本日がスタートと考えており、今後地域や各種団体が話し合う機会に全国の事例やいろいろな考え方を提案しながら地域に合ったまちづくりを具体化できるよう一緒に取り組んでいきたいと考えている。

・市議から今後、市も金が無くなるのお話を聞いた。間違いなくそういう時期が訪れると思う。行政は「あれもやります。これもやります。」と言わず、各地域の特徴を捉え予算配分を行ってほしい。全部やるでは全てが中途半端になって元気なまちづくりが出来なくなってしまう。

これからはあれもこれもといった時代でなくなると考えている。協働のまちづくりの仕組みの中で特徴のある地域、がんばっている地域をどういう形で財政支援していくかをこれからの議論の中で検討していく必要があると思っている。

・今後人口が減ると税収が減り、市の財政運営も厳しくなることが想定される。自分たちのやれることは自分たちの手でやっていると地域の活動が出来なくなると感

じた。これまで行政任せであったことを、今後は自分たちでやっていく事は仕方ないと思うが、子どもたちが自分たちのそういった姿（今よりも忙しくなる姿）を見て、この地域で住み続けたいと思うのか疑問である。今後すすめていくまちづくりの価値観をしっかりと教えていかないと、子どもたちは住みやすい地域を見つけ離れていくのではないかと不安である。

子どもたちにどういった価値観を伝えていけば良いのか、とても重要なことだと考えている。すぐには答えが出るものではないし、行政や地域だけで出すものでもない。皆様といろいろな議論をし、何が大事か、何を残して伝えていかなければならないかを考えていくのがまちづくりの第一歩になると考えている。

《企画課説明》

②行政ですすめるまちづくりについて

（市民参加条例（仮称）の制定に向けて）

《②に対するの質疑応答》

- ・ 質疑なし

《説明全体に対するの質疑応答・意見交換》

- ・ 人口減少が進行する中、今後の高山市のまちづくりをどのように考えているのか。

人口減少は、高山市のみならず、全国的な課題であり、現在の減少傾向を好転させることは、極めて困難であると捉えている。今後の高山市のまちづくりについては、人口減少のカーブを少しでも緩やかにする取り組みを進めるとともに、人口が減少しても持続可能なまちをつくっていくことが必要であると考えている。

《閉 会》